

## 2015年9月の附属小学校実習の反省より

### ① 今回の実習で子どもから学んだこと

・子どもは教師の言葉を非常に素直に受け取り活動する。教師の発問が良くなく、授業がしっかり方向付けされていないと、子どもは何に向かって活動しているのか分からなくなり、「教師がどんな答えを期待しているのか」を教師の顔色をうかがいながら考えて答えてくるようになる。学習の核となる発問は事前に授業の流れの中で不自然でないか、確認しておくことが大切だと実感した。

・(子どもを) 怒ったとしても、しっかりと子どもに自分の意見を言わせたり、理不尽でなければ関係が悪くなったりしない。一番は児童のために何が必要なのかを考えること。

### ②実習中の失敗談

・実習記録やバインダーを家に忘れてしまった日がありました。授業の指導案は持っていたため、1日なら困らないと軽く考えていたところ、実際は普段のように授業中にメモをとったり、指導案に書き込んだりすることができなかつたり、児童の様子も見直すことができなくなってしまいました。

・学年全体で行った初めての自己紹介をした際に、あまりしっかりと考えておらず、子どもの前で緊張していたこともあり、きちんと自己紹介をすることができなかった。他の実習生は、絵やクイズなどを用意していたので、私も何か子どもの印象に残ることができるよかったと思う。授業では、音楽の授業で自分が話しすぎたり、意見を聞く時間を長くとりすぎて、数回しか歌う事ができなかった。

### ③次に附属小へ実習に行く後輩に伝えておきたい事。

・クラスには40人近くの児童がいますが、その中には積極的に発言してくれる児童もいれば、なかなか手を挙げない児童もいます。人数も多いので、いつも同じ人ばかり当てるわけにもいれないと思ったので、私は発言している前にノートに意見を書いてもらって、全員の意見を把握するようにしました。あとは児童とたくさん遊んであげてください！

・授業をして感じたのは、附属の子ども達が活発に発言・議論できるのは、子どもたちが勉強の面白さを知っているからこそ。知的に面白い教材でなければ、授業が盛り上がらない。附属の子どもだから・・・と先入観を持たず、実際に自分で子どもたちの実態を掴んでいくことが大切だと思う。